



発行者: 社会福祉法人じねんじょ
発行日: 令和7年8月1日
TEL: 083-252-2227
FAX: 083-252-2259
E-mail: jinenjo@jinenjo.or.jp
http://www.jinenjo.or.jp

大地

(じねんじょ通信)

VOL.

42

2025/8

「じねんじょ」のこれから

社会福祉法人じねんじょ理事長 金原 洋治

本稿では、20周年記念誌で十分お伝え出来なかった「『じねんじょ』のこれから」について、述べたいと思います。

1 「こんなものがあつたらいいな。」「ないものはつくる。」

私達は、「どんなに障害が重くても、地域の中でみんなと一緒に暮らしたい。」という当事者やご家族の思いから、「なければつくる。」という信念で、ご家族や支援者と、「こんなものがあつたらいいな。」と夢を語り続け、「じねんじょ」が誕生しました。これからも、「こんなものがあつたらいいな。」を大切にしていきます。

2 「じねんじょのこれから」

(1) 職員の確保と配置及び、保育や療育の充実

● 児童部: 「むくっこ」と「むく」

就学前の子どもが利用する「むくっこ」、学齢期の子どもが利用する「むく」では、保護者の就労支援のニーズが高まり、低年齢児や医療的ケア児の利用、長時間の利用や送迎の希望の増加への対策が必要です。

● 生活介護: 「じねんじょ」と「だいち」

「じねんじょ」と「だいち」では、総合支援学校の今後の卒業予定者から、新規利用者が、来年度以降、毎年、数人ずつ程度あると予測しています。

また、現在、医療的ケアが必要な利用者は16人で、生活介護の利用の可能性のある「むく」の中高生のうち、医療的ケア児が7人という状況から、職員の増員、療育や医療的ケアの質の向上が必要です。

● ヘルパーステーションふわり

重症心身障害者の生活支援には、ヘルパーの支援も必要ですが、他の事業との兼務の職員が多いため、支援ニーズに合った十分なサービスの提供が課題です。

● 相談支援事業と山口県西部医療的ケア児支援センター

相談支援専門員(常勤と非常勤各1人)は、113件の相談を担当していますが、新規の相談も入り、相談支援の件数が増加する中、ご家庭などへの訪問、担当者会議への出席、また、山口県西部医療的ケア児支援センターにおける萩など他市町の活動も増え、相談支援のできる職員の増員が必要です。

(2) 福祉サービス体系の変化と施設運営の安定化

国の動向として、基本の報酬単価は上げず、支援ニーズに合わせた報酬の新設や単価の設定といった加算方式に重点が置かれています。福祉や医療の専門職の配置により、報酬単価(収入)が大きく変わるため、メンバーのニーズや施設運営の安定化を考慮の上、加算となるサービスの実施や、そのことに合わせた職員の確保と配置の工夫が必要です。

(3) 職員の待遇と生きがい・やりがい

当法人の事業では、生活全般の介助が必要な方が多いため、常勤職員を少なくし、非常勤職員を多く配置することで、介助を行う職員を確保してきました。この方針により、常勤職員が少なく、他の施設と比較すると、待遇面も十分ではない中、多くの職員が、メンバーの笑顔と使命感から、長い間勤務してくれています。

今後は、職員のいきがい・満足度を高めて行くことにも、もっと力を入れ、長く働き続けることのできる職場環境づくりに努めます。

生活介護サービス事業所 じねんじょ

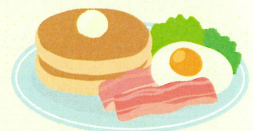
屋上では、園芸で花を育てました。水やりをして、成長していく姿を楽しみにしています。
新しくオープンした場所、気になった場所、よく行っている場所など、色々な場所へでかけました。地域の方と出会い、楽しい時間が過ごせたらと思います。



生活介護サービス事業所 だいち

だいちです。だいちは今までものづくりグループと喫茶グループの2グループでしたが、今年度から1つのグループとして新たなスタートを切りました。新しいグループ名としてメンバーの一人が「One teamがいいと思う。」と提案して下さり、多数決で決定しました。「心をついに」「地域と共に」「協力し合う」という意味を込めて、One teamを形作っていきます。

だいちの日中活動はメンバーと話し合いながら予定を立てており、外食、パラバルーン、フラワーアレンジメントなど様々な活動を行っています。やりたいことを実現することで笑顔の輪が広がっています。



Jマルシェ

令和3年より、生活介護事業所だいちのフロアで、Jマルシェを開いています。

地域の学校、お店等の協力でポスターを貼らせて頂いたり、社会福祉法人じねんじょのSNSで案内を発信したりしています。また最近では外部の方をお招きしてイベントを開催する事もあり、少しずつですが、認知されてきて、ちょっと気になって入ってみた方もいれば、定期的に足を運んでくれる方もいらっしゃいます。

たくさんの方と出会えるのを楽しみに、少しずつでも、じねんじょの輪が広がっていったら良いと思います。ぜひ、Jマルシェにおいでませ！お待ちしております♪



新メニューの試飲中



「安岡苑」さんによる平家太鼓の演奏、体験



「生田流 箏曲地歌 絃照会」さんによる箏の演奏



放課後等デイサービス むく

今年の春はお花見日和でしたね。むくメンバーも色々な所でお花見を楽しみました。

中でも、幡生近隣公園はむくからも近いので、活動時間もたっぷりありました。メンバーは屋外活動が本当に大好きなようです。車いすから降りてゆっくり歩いてみたり、職員と一緒に滑り台やブランコに乗って風を感じてみたり、日頃できない活動で心も身体もリフレッシュできました。

桜の花もととてもきれいでしたし、公園もきれいで歩きやすく、メンバーにとってとても過ごしやすい素敵な公園でおおすすめです。

日頃とは違うメンバーのイキイキした表情や笑顔、そして桜の花にみんなで満たされました。



児童発達支援 むくっこ

今年は気持ちのいい春の陽気が続きましたね。むくっこでは川中中央公園に遊びに行きました。川中中央公園は、下関市初のインクルーシブ遊具公園として今年の4月にリニューアルされました。ハーネスで身体を固定できるブランコをはじめ、インクルーシブ遊具がいくつかあり、誰もが一緒に楽しく遊べる公園です。

むくっこのみんなは、わくわくドキドキしながら遊具を体験しました。初めての遊具にちょっとびっくり顔の子、何度も繰り返してお気に入りの遊具で遊ぶ子、いろいろな表情や様子を見ることができました。地域の子どもたちとも遊具を共有しながら、一緒に時間を楽しむことができました。またみんなで遊びに行きたいと思います。

社会福祉法人じねんじょ 20周年記念祝賀会 を行いました

令和6年11月2日(土)グランドホテルにて社会福祉法人じねんじょ20周年記念祝賀会を開催いたしました。

当日の朝は警報が出るほどの悪天候でしたが、メンバー、ご家族を含めたくさんの方々に参加していただきました。

金原先生のお話やスライドショーで20年を振り返りました。コーロ・チェレステさんのコンサート合唱、弦楽器のアンサンブルなど、今までお世話になった方による素敵な催しもありました。

また懐かしい写真を振り返りながら美味しい料理をいただき、心温まる素敵な時間を過ごすことができました。職員として新たな20年を皆さんと共に歩んでいきたいと思う1日でした。



看護部

感染について



看護部では「感染対策についての知識・技術が向上することで、メンバーの健康を守ることができる」を目的として、年に2回の感染対策研修および訓練を行っています。令和6年度6月には感染の3要素や感染経路の研修のあと、通常の手洗い、手指消毒でどの部位に汚れが残しやすいかについて実際に目で見て確認しました。職員の声として手洗いを意識して行うようになったという意見が聞かれました。12月には感染症状の事例からどのような支援が必要かシミュレーションを行いながら考えることができました。令和7年度も6月、12月に研修・訓練を行います。メンバーの健康を守るため、感染対策について職員全員が改めて意識し考える機会にできればと思っています。

栄養部

窒息事故を防ぐために



ここ数年、保育園や小学校、高齢者施設等で窒息による死亡事故が報じられることが増えています。自宅以外での給食中に起こった事故は大きなニュースになりますが、実は窒息事故は私たちの身近な問題であり、どんな人にも起こり得るものです。

「窒息は、小さい子どもや高齢者、飲み込みの機能が低下した人に起こることだろう」と思っていないですか？私も以前まではそうに考えていました。しかし、昨年、私自身がトーストで窒息しかけた経験をし、その考えが一変しました。立ったまま急いで食べていたことが原因で、ムせてしまい、咀嚼していたパンの塊を勢いよく吸ってしまったのです。幸い、喉の入り口付近で止まっていたので、吐き出すことができ、難は逃れましたが、とても苦しく、恐ろしい体験でした。

このように、普段何でもないと思っている食事時の出来事が、偶然の積み重ねで窒息事故に繋がる可能性もあるのです。だからこそ、私たち一人ひとりが危険を意識し、予防に努めることが重要です。

じねんじょでは、メンバーの食の安全を守るため、5月に「誤嚥と窒息」についての研修を行いました。この研修では、窒息が起こるメカニズムや、万が一窒息事故が起きた場合の対応方法について、1時間半かけてしっかりと学びました。栄養部では、安全な食事提供を行うために、食材の大きさや硬さなどを慎重に確認しています。さらに、全スタッフが「すべての食材に窒息のリスクがある」と意識し、食事介助や補助、観察を適切に行うことの重要性を共有しました。この取り組みが、より安全な食事提供に繋がると信じています。

行事について

●じねんじょフェスティバル2025

日時：令和7年10月

場所：じねんじょ館内 下関市生野町2丁目28-20

※予定の為、変更の可能性がございます。

●じねんじょ公開フォーラム

日時：令和7年9月21日(日)14時～

場所：川中公民館 下関市伊倉町2丁目1-1

電話：083-255-3501

●8月23、24日に開催予定の馬関まつりにも参加予定です。詳しくは、じねんじょ(083-252-2227)までご連絡ください。

池内さん、ありがとうございました!



令和7年6月20日の任期をもちまして、池内京子さんが、社会福祉法人じねんじょの評議員と福祉サービスに関する苦情解決第三者委員を退任されました。開設前から、多方面にわたり、じねんじょを支えていただき、本当にありがとうございました。

なお、「じねんじょ」を育む会の会長は、続けてくださるそうですので、引き続き、よろしくお願いいたします。

また、社会福祉法人じねんじょの評議員には、元じねんじょ職員の中村桃子さんが、福祉サービスに関する苦情解決第三者委員には、市議会議員の宮野直樹さんが就任されました。お二人には、よろしくお願いいたします。

寄付者氏名 6月9日現在(順不同)

梅崎淳様・金原千鶴様
梅光学院大学様・落合保宣様・田中国輝様
大畑一郎様・下関西ロータリークラブ様
株式会社 松岡様

ありがとうございました!

編集後記

広報誌「大地」の発行が、今年度から年1回の発行になりました。21年目を迎え各事業所の1年間の活動の様子などを、沢山の方に見て知っていただけたらと思っています。地域の皆様や他事業所の方など沢山の方々と深く広く繋がり、「じねんじょの輪」を広げていけるようにSNS等発信を続けていこうと思います。

SNS

Facebook



Instagram

